

市長の政治姿勢について

佐藤 誠 洋

問 組織機構について伺う。

公民館を市長部局に位置づけ、生涯学習分野だけでなく、まちづくりの拠点としての機能を高めれば、「行政が遠い」という住民不安の声が少なくなり、伝統・文化や地域の思いが活発に生かされると思うが、市長の見解を求めます。

答 地域局庁舎を基点として、地域住民への行政サービスや特色ある地域振興策の展開を図っているが、平成21年度末の自治区制廃止を見据えて、新たな行政機構の枠組みを構築しなければならぬ時期にきていると思っている。

折りしも先般、新庁舎を考える市民会議より「本庁集約化・地域局機能の維持」との方針が示されたわけであるが、高齢者等の交通弱者に配慮した行政サービスの広域展開についても具体的にご提案をいただいたところである。

市では、合併以降、行財政改革の一環として職員削減に継続的に取り組んでおり、少ない職員で最大の効果を生む体制を構築すべく効率的な組



本会議場・市長以下、市の幹部が並ぶ参与席

織再編についても検討しているが、地域局の役割あるいは配置する職員数についても見直しを図らなければならないと考えている。

市民の利便性を損なうことなく改革を前進させるためには各公共施設の位置づけについても再検討する必要があると考えている。

公民館の所管も含めたあり方を総合的に判断して行きたいと考えている。

その他の質問

- 市長の政策の見える予算を
- 農業振興策、農家の所得向上について

中央線と八幡根岸線の見通しは

石井 正 志

問 都市計画道路「中央線」「八幡根岸線」について伺う。

蛇の崎橋から幸町交差点までの中央線の完成年度と、八幡根岸線の見通しは。

答 今年度中に都市計画決定の変更を終え、平成21年度から着工する。蛇の崎橋から八幡根岸線交差点までを市が、そこから幸町交差点までを県が担当し、平成27年度完成を目指しているが、できるだけ早めるように努めたい。

八幡根岸線については、中央線終了後、引き続き着工することになると思うが、更に県に要望していきたい。

問 市税の徴収システムの見直しについて伺う。

市民が納めた税金を未納扱いにして着服した増田地域局職員の事件は誠に遺憾で、市民は怒りを通り越してあきれ果てている。信用失墜の大きさは計り知れない。また、不正が行われていたことに2年余りも全く気づかないでいた市の管理体制も問題だ。今回の事件で、ある市民から市職員のモラルの低下と管理職の



中央線道路・蛇ノ崎橋付近

怠慢を厳しく指摘した上で「職員個々にICチップ付きのカードを持たせ、窓口の端末とリンクし、システムの操作ログを履歴として残すべき」との提案があった。市民からの貴重な提言であり、ぜひ検討されたい。

答 ご指摘のICチップの導入は、一般に民間企業では普及していると聞いていますが、導入に関わる経費やチェック体制の面など、多方面から導入が可能かどうか検討したい。

その他の質問

- 公共下水道の不正使用について